

花巻・ベルンドルフ友好都市提携50周年にちなんだ催し：5月5日『こどもの日』

(Facebook ページより和訳)

場所：ベルンドルフ劇場前公園（雨天の場合：劇場内ホール）

詳細は追ってお知らせします。

インフォメーション：

『こどもの日』は、ゴールデンウィーク中の5月5日で、日本の祝日の1つにあたります。この日は、子供たちの人格・個性を尊重し喜び祝う日とされています。

起源：

元は『端午の節句』と称され、中国の端午節に合わせたものと言われています。

『節句』とは、年中行事して用いられる単語で（現在では5節句ある）、夏または雨季の始まりを表します。『端午』とは、2つの意味を持つ言葉がくっついたもので、『端』は“物のハシ”“始まり”を、『午』は“午（ウマ）の日”を意味します。日本語で数字の5が『午』と同じ発音のため、5月5日を指すようになりました。かつて中国の旧暦では、5月は浄化の月とされており、邪気(悪霊)をはねつける様々な儀式がこの月に執り行われていました。

いつ頃から普及した行事なのかは定かではありませんが、推古天皇（592－628）の時代に、日本に広がったと推定されています。奈良時代に、5月5日が正式に『端午の節句』と決められました。

最近までは、端午の節句は男の子のお祝い、女の子のお祝いは3月3日の雛祭りとしていましたが、1948年に5月5日を祝日にするとし、全ての子供たちが喜びを祝い、母親に対して感謝の気持ちを表す日になりました。それゆえに『子供の日』と名称を変更しましたが、この変更には批判的な声もあります。

慣習：

各家庭では、この日に丈の長い竹の木に『鯉のぼり』が揚げられます。大きな黒い鯉のぼりはお父さん、赤い鯉はお母さん、青い鯉はその家の子供たちを指します。風の中で回転式に固定された鯉は、子供たちが鯉のように元気に育つよう祈る親の願いを表し、大きな川を泳がなければならない力強い鯉と似通っています。また『金太郎』という、兜を被り、大きな鯉を持った人形も各家庭で陳列されます。金太郎は、サカタノキントキという人物の幼少時代の名前で、平安時代の英雄の一人です。源頼光に仕え、幼少時代は勇敢な少年と有名でした。この日は、柏餅やチマキを食べるしきたりがあります。